

告示	番号	11	神経・筋疾患
	疾病名	肢帯型筋ジストロフィー	

肢帯型筋ジストロフィー

したいがたぎんじすとるふいー

概念・定義

Duchenne 型、顔面肩甲上腕型、先天型にあるような臨床診断的特徴を欠く筋ジストロフィーにつけられた臨床診断名

症状

優性遺伝をとるものはきわめてまれである。原因が多岐にわたるために臨床症状も幅がある。常染色体劣性遺伝の患者の場合には、発症年齢は小児期から50歳代以降までと幅がある。無症候性の項クレアチンキナーゼ血症の場合や、デュシェンヌ型と変わらぬ重症の経過をとる場合もあるが、デュシェンヌ型よりも臨床経過は軽く、進行も遅いことが多い。下肢帯筋が好んで侵されるので、走れない、転びやすい、階段昇降困難などが初発症状となり、Gowers 徴候が陽性となる。下腿の仮性肥大はないかあっても軽度である

治療

根本的治療法は現在までのところ見いだされていない。必要に応じて、リハビリテーション、呼吸障害や側弯に対する治療が行われる

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/11_13_33.html